

第 2 期あまがさきし地域福祉計画の点検・評価について

1 趣旨

第 2 期地域福祉計画（H23～28 年度）の進捗状況について、定期的に点検及び評価を行い、そこから見える成果や課題等を基にさらなる取り組みを進める。

2 実施方法

点検・評価を行う項目ごとの実施状況や自己点検結果、今後の取り組みを基に、地域福祉政策としての成果や課題等に対する委員評価を得て、改善すべき点や今からどのような取り組みができるかなどを明らかにし、以後の推進に反映させていく。

PDCA サイクル	計画	施策の実施	点検・評価	取り組みの充実
-----------	----	-------	-------	---------

3 点検・評価の項目

基本目標及び重点的な取り組みの中から、特に推進に力を注ぐ項目を抽出し、焦点を絞った点検・評価を実施する。

基本目標 1	小地域福祉活動を中心とした福祉コミュニティづくり <i>小地域福祉活動の展開</i>
基本目標 2	地域生活を支える体制づくり <i>地域ケアの推進</i>
基本目標 3	安心して暮らせる環境づくり <i>要援護高齢者等見守り体制の推進</i>
重点的な取り組み	小地域福祉活動基盤の充実 <i>新たな担い手づくり</i> <i>地域福祉推進の専門職の配置</i> <i>地域の生活・福祉課題を共有し検討する場づくり</i> <i>地域と市、専門機関のネットワークづくり</i>

4 点検の視点

各項目について、質的点検、数的点検、市民による点検の 3 つの視点から点検を行うとともに、地域福祉計画の影響及び効果についても検証する。

質的点検

到達したい目標を設定し、その目標に向けて、どのような変化が生じているかなどの事象の変化等をもって計画の推進状況の点検を行う。

数的点検

地域福祉推進の度合いを測るための数的指標を設定し、その数量の推移をもって計画の推進状況の点検を行う。

市民による点検

第 2 期計画の取り組みにより、市民等が抱える生活福祉課題と地域福祉の取り組みの実態を把握するために、「あまがさきし地域福祉計画」の評価・推進にかかる意識調査を実施した。

意識調査の回答、クロス集計の分析等により、計画の推進状況の点検を行う。

(調査方法) 郵送による発送・回収

(調査対象者) 市民 住民基本台帳に記載されている市内在住の満 20 歳以上の市民の中から、2,000 人を無作為に抽出

民生児童委員 民生児童委員 831 名を対象

福祉事業者 NPO 法人を含む市内福祉事業者の中から 200 事業者を抽出した。

(調査実施時期) 発送日：平成 28 年 5 月 27 日(金)

投函締切日：平成 28 年 6 月 17 日(金) 6 月 22 日着分までを集計対象

(回収状況)

	発送数	返送数	有効 発送数	回収数	有効 回収率	(平成 21 調査)
市民	2,000	34	1,966	840	42.7%	39.8%(786/1976)
民生児童委員	831	2	829	641	77.3%	72.1%(611/848)
福祉事業者	200	1	199	125	62.8%	64.8%(127/196)
合計	3,031	37	2,994	1,606	53.6%	50.5%(1524/3020)

第2期あまがさきし地域福祉計画
点検・評価シート

平成29年3月

(尼崎市社会保障審議会 地域福祉専門分科会)

基本目標1 小地域福祉活動を中心とした福祉コミュニティづくり

点検・評価の項目及び視点	項目	小地域福祉活動の展開																																																			
	視点	小地域福祉活動の広がりが生まれたか																																																			
計画期間内の目標	高齢者や障がい者、子どもを問わず、住民が集うことにより、住民間のつながりが深まる中で、地域住民の福祉ニーズが見えてくるとともに、そのニーズに即した小地域福祉活動が展開される。																																																				
点検・評価の期間	平成 23 年度 から 平成 28 年度																																																				
実施状況	<p>平成28年10月に始まった高齢者ふれあいサロン推進運営費補助事業において、12月末現在で68団体で高齢者ふれあいサロンを実施 子どもに寄り添う居場所・交流の場が、平成27年度5カ所、平成28年12月末時点11カ所で実施されている。 上記の活動の中には、学習支援を組み合わせたり、幅広い世代が立ち寄れる新たな居場所とするなど、地域の課題に合わせた取り組みが行われている。</p>																																																				
点検	質的 point 点検	<p>【到達度を測る事象】 小地域における住民交流が広がっている</p> <p>高齢者ふれあいサロンなどの住民同士が集える場が増えることで、閉じこもりがちな高齢者の参加や、参加者同士の見守りにもつながっている。 また、地域住民同士や様々な団体が地域活動の中で話し合い、地域課題を共有することで、新たな活動への広がりも見られている。 一方で、地域住民のつながりの希薄な地域では、市社会福祉協議会の地域福祉活動専門員が地域の会議や地域活動への参加などを通して、地域住民や地域団体の声を丁寧に把握することから始めるなど、時間をかけた取り組みが必要となる。</p>																																																			
		数的 point 点検	<p>【指標】 ふれあい喫茶等、老人給食、高齢者等見守り安心事業、子どもに寄り添う居場所・交流の場の実施数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値 1</td> <td>222</td> <td>222</td> <td>222</td> <td>222</td> <td>222</td> <td>225</td> <td>225</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績 2</td> <td>55</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>110</td> <td>118</td> <td>136</td> <td>152</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成割合</td> <td>24.8%</td> <td>30.6%</td> <td>32.9%</td> <td>49.5%</td> <td>53.2%</td> <td>60.4%</td> <td>67.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>増加数</td> <td></td> <td>13</td> <td>5</td> <td>37</td> <td>8</td> <td>18</td> <td>16</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1 目標値は、連協数75(H26までは連協数74)×3カ所で設定 2 H27～子どもに寄り添う居場所・交流の場、H28～「高齢者ふれあいサロン」の実施数を追加 3 平成28年12月末時点</p>								策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28	3	目標値 1	222	222	222	222	222	225	225		実績 2	55	68	73	110	118	136	152		達成割合	24.8%	30.6%	32.9%	49.5%	53.2%	60.4%	67.6%		増加数		13	5	37	8	18	16
			策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28	3																																											
目標値 1	222	222	222	222	222	225	225																																														
実績 2	55	68	73	110	118	136	152																																														
達成割合	24.8%	30.6%	32.9%	49.5%	53.2%	60.4%	67.6%																																														
増加数		13	5	37	8	18	16																																														
市民による point 点検	<p>【アンケート調査での確認内容】 民生児童委員の担当区域における地域福祉活動（ふれあい喫茶や老人給食、子育てサロンなどの集いの場や、高齢者等の見守り活動など）の実施状況</p> <div style="text-align: center;"> <p>全体 (n=641)</p> <p>68.0% 23.4% 4.5% 4.1%</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■ 行われている □ 行われていない ■ 把握していない ▨ 不明</p> </div> <p>民生児童委員の約68%が、担当区域で地域福祉活動が「行われている」と答えている。</p>																																																				
計画の影響・効果	<p>地域福祉活動専門員の取り組みにより、各地域ではサロン活動を中心に、地域福祉活動の広がりが見られている。 こうした取り組みの中から、高齢者、障がい者、子どもを問わず住民が集う場として、対象を幅広く捉えた活動が展開されている。</p>																																																				
今後必要な取り組み	<p>第3期「あまがさきし地域福祉計画」の施策の展開方向 基本目標2 - (1)地域を支えるネットワークづくり 基本目標2 - (2)地域での見守り・支え合いの充実 基本目標2 - (3)多様な手法による地域福祉活動の推進</p>																																																				

基本目標2 地域生活を支える体制づくり

点検・評価の項目及び視点	項目	地域ケアの推進																													
	視点	支援が必要な人を発見できる体制づくりが進んでいるか																													
計画期間内の目標	身近な地域で、支援が必要な人を見つけ、必要な支援が受けられる関係機関につなげるための仕組みづくり																														
点検・評価の期間	平成 23 年度 から 平成 28 年度																														
実施状況	<p>コミュニティソーシャルワークの基盤強化（社会福祉協議会の取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動専門員が各地区の取り組みを共有し、事例検討などを行う専門員会議を、月に1回実施するとともに、平成28年度からは、社会福祉協議会支部事務局で毎月支部会議を実施し、支部事務局の相談機能の強化に取り組んでいる。 ・また、専門員会議、支部会議にアドバイザーとして学識経験者の参加を得るほか、他市の社会福祉協議会、行政と合同で実施しているコミュニティソーシャルワーク研究会に毎年参加する中で、事例検討や情報交換を行うなど、専門性の向上に努めている。 																														
点検	質的点検	<p>【到達度を測る事象】 住民、専門機関、行政が連携して要介護者を支援している</p> <p>社会福祉協議会支部事務局には、地域活動を通じて地域住民から気になる人の相談や、民生児童委員や地域包括支援センターなどと連携する中で、様々な相談が増えている。</p> <p>一方で、アンケート結果からも、社会的孤立状態にあるなどにより、課題を抱えながら支援に結びつかない市民も少なからず存在しているため、身近な地域で支援が必要な人を見つける体制の充実が必要となる。</p>																													
	数的点検	<p>【指標】 なし</p> <p>制度の隙間の課題や複合的課題に対応していくための仕組みづくりという、数量指標の設定が困難な項目であるため、数量評価指標は設定しない。</p>																													
	市民による点検	<p>【アンケート調査での確認内容】</p> <p>市民が日常生活において感じている不安の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>不安の種類</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>自分や家族の健康</td><td>55.6</td></tr> <tr><td>自分や家族の老後</td><td>52.4</td></tr> <tr><td>収入や生活費のこと</td><td>44.8</td></tr> <tr><td>災害にあった時のこと</td><td>42.3</td></tr> <tr><td>介護、介助に関すること</td><td>26.5</td></tr> <tr><td>仕事に関すること</td><td>14.6</td></tr> <tr><td>隣（家族や友人、近所など）の人間関係のこと</td><td>13.9</td></tr> <tr><td>住まいのこと</td><td>13.2</td></tr> <tr><td>子育てに関すること</td><td>12.4</td></tr> <tr><td>相談できる相手がいないこと</td><td>6.4</td></tr> <tr><td>特になし</td><td>6.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>不明</td><td>2.3</td></tr> <tr><td>不安の平均数</td><td>2.9</td></tr> </tbody> </table> <p>市民1人が抱える不安の平均数は約2.9個となっている。</p> <p>また、「相談できる相手がいないこと」を不安に感じていると答える方も6.4%おり、不安を抱えながら地域で孤立している市民の状況が見られる。</p>	不安の種類	割合 (%)	自分や家族の健康	55.6	自分や家族の老後	52.4	収入や生活費のこと	44.8	災害にあった時のこと	42.3	介護、介助に関すること	26.5	仕事に関すること	14.6	隣（家族や友人、近所など）の人間関係のこと	13.9	住まいのこと	13.2	子育てに関すること	12.4	相談できる相手がいないこと	6.4	特になし	6.5	その他	3.5	不明	2.3	不安の平均数
不安の種類	割合 (%)																														
自分や家族の健康	55.6																														
自分や家族の老後	52.4																														
収入や生活費のこと	44.8																														
災害にあった時のこと	42.3																														
介護、介助に関すること	26.5																														
仕事に関すること	14.6																														
隣（家族や友人、近所など）の人間関係のこと	13.9																														
住まいのこと	13.2																														
子育てに関すること	12.4																														
相談できる相手がいないこと	6.4																														
特になし	6.5																														
その他	3.5																														
不明	2.3																														
不安の平均数	2.9																														
計画の影響・効果	<p>地域福祉活動専門員を中心として、個別課題の早期把握と解決に向けた地域住民、関係機関等のネットワークの構築が進められている。</p> <p>しかしながら、地域社会のつながりの希薄化や単身世帯の増加等を背景に、課題を抱えながら地域で孤立する人の増加が懸念されており、引き続き、支援を必要とする人の早期把握に向けたネットワークの充実が必要となる。</p>																														
今後必要な取り組み	<p>第3期「あまがさき地域福祉計画」の施策の展開方向</p> <p>基本目標2 - (1)地域を支えるネットワークづくり</p> <p>基本目標3 - (1)包括的・総合的な相談支援体制の充実</p>																														

基本目標3 安心して暮らせる環境づくり

点検・評価の項目及び視点	項目	要援護高齢者等見守り体制の推進																																						
	視点	見守り活動を通して、地域住民の福祉意識が高まっているか																																						
計画期間内の目標	見守り活動が広まるとともに、その対象も、高齢者に限らず、見守りや支援を必要とする人を包み支えるという意識や活動が広まる。																																							
点検・評価の期間	平成 23 年度 から 平成 28 年度																																							
実施状況	<p>高齢者等見守り安心事業の実施地区の拡大 平成29年1月末時点 75連協のうち41連協（約54%）で実施 緊急時の通報体制の構築に向けた民間事業者等と見守り協定を平成23年に締結したほか、連絡先やかかりつけ病院等を記載するヘルプキットを配付している。 外出したまま所在等がわからなくなった高齢者等を多くの地域の目で探す尼崎市「認知症みんなで支えるSOSネットワーク」の平成28年度中の実施に向けて、市民周知と関係団体との調整を進めている。</p>																																							
点検	質的点検	<p>【到達度を測る事象】 幅広い対象者への見守り活動が行われている</p> <p>地域福祉活動専門員の働きかけにより、見守り安心委員会の中では、日中、単身になる高齢者や障がい者などの要援護者、子どもなど、見守り対象者以外の見守りについての検討を始める所や、実際に気になる人を見守りの対象とする地域も出てきており、活動の広がりとともに、住民の福祉意識の高まりが見られる。 また、見守り活動に加えて、ふれあいサロンなどの交流の場においても、参加者同士がお互いの参加状況を気にするなど、相互の見守りにもつながっている。 こうした活動を通して、地域課題が話し合われる機会も増えており、そうした中から、新たな取り組みを検討、実施する地域も出てきている。</p>																																						
		数的点検	<p>【指標】 高齢者等見守り安心事業の実施連協数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28()</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>4</td> <td>16</td> <td>23</td> <td>32</td> <td>35</td> <td>39</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>達成割合</td> <td>5.4%</td> <td>21.6%</td> <td>31.1%</td> <td>43.2%</td> <td>47.3%</td> <td>52.0%</td> <td>54.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成29年1月末時点</p>								策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28()	目標値	74	74	74	74	74	75	75	実績	4	16	23	32	35	39	41	達成割合	5.4%	21.6%	31.1%	43.2%	47.3%	52.0%
		策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28()																																
目標値	74	74	74	74	74	75	75																																	
実績	4	16	23	32	35	39	41																																	
達成割合	5.4%	21.6%	31.1%	43.2%	47.3%	52.0%	54.7%																																	
市民による点検	<p>【アンケート調査での確認内容】 市民が興味や関心のあるボランティア活動など地域の支え合い活動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者等見守り活動</td> <td>38.5</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>18.3</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>16.9</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>16.1</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>15.1</td> </tr> <tr> <td>高齢者の見守り活動</td> <td>7.4</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>10.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>市民が興味や関心のある支え合い活動は、見守り活動や交流活動の順に高い。</p>							活動内容	割合 (%)	高齢者等見守り活動	38.5	高齢者の見守り活動	18.3	高齢者の見守り活動	16.9	高齢者の見守り活動	16.1	高齢者の見守り活動	9.0	高齢者の見守り活動	8.6	高齢者の見守り活動	5.1	高齢者の見守り活動	15.1	高齢者の見守り活動	7.4	不明	10.8											
活動内容	割合 (%)																																							
高齢者等見守り活動	38.5																																							
高齢者の見守り活動	18.3																																							
高齢者の見守り活動	16.9																																							
高齢者の見守り活動	16.1																																							
高齢者の見守り活動	9.0																																							
高齢者の見守り活動	8.6																																							
高齢者の見守り活動	5.1																																							
高齢者の見守り活動	15.1																																							
高齢者の見守り活動	7.4																																							
不明	10.8																																							
計画の影響・効果	<p>高齢者等見守り安心事業自体の、新規実施件数の伸びは緩やかとなっているものの、見守りを必要とする対象者を幅広く捉えたり、活動の中で新たな地域課題について話し合うなど、地域住民自らが地域課題を把握し、取り組もうとする意識の広がりが見られている。</p>																																							
今後必要な取り組み	<p>第3期「あまがさき地域福祉計画」の施策の展開方向 基本目標2 - (1)地域を支えるネットワークづくり 基本目標2 - (2)地域での見守り・支え合いの充実 基本目標2 - (3)多様な手法による地域福祉活動の推進</p>																																							

見守り事業指定地区一覧（H29.3.1現在）

「高齢者見守り安心事業」実施地区一覧【実施日の順に掲載】

開始日順	支部	地区名	実施年度	推進員	協力員	活動員計(A)	希望者(B)
1	小田	左門殿	H21	17	20	37	107
2	武庫	パークタウン西武庫	H21	15	22	37	233
3	園田	戸ノ内町北	H22	15	21	36	50
4	中央	西難波北	H22	7	10	17	67
5	中央	繁栄	H23	9	3	12	16
6	大庄	浜田	H23	15	17	32	64
7	立花	生島西	H23	14	20	34	105
8	立花	富松	H23	9	30	39	45
9	小田	金楽寺	H23	9	15	24	64
10	中央	立花グリーンハイツ	H23	8	12	20	61
11	大庄	西大島	H23	17	119	136	351
12	立花	塚口本町	H23	18	53	71	174
13	園田	小中島	H23	11	12	23	77
14	大庄	大庄中央	H23	14	28	42	192
15	大庄	崇徳院	H23	12	20	32	46
16	大庄	西立花	H23	14	0	14	79
17	園田	園田南	H24	20	33	53	146
18	大庄	芋	H24	9	7	16	56
19	中央	中難波	H24	9	16	25	76
20	小田	潮江	H24	11	51	62	207
21	大庄	道意	H24	10	31	41	90
22	大庄	大庄西	H24	16	10	26	81
23	大庄	東大島	H24	23	57	80	402
24	大庄	東	H25	16	21	37	120
25	園田	園田北	H25	10	22	32	47
26	小田	長洲	H25	24	64	88	179
27	武庫	武庫第2	H25	7	19	26	54
28	武庫	武庫第11	H25	7	12	19	49
29	中央	北竹谷	H25	5	25	30	78
30	立花	塚口西	H25	9	76	85	222
31	園田	上坂部	H25	19	2	21	48
32	大庄	稲葉荘	H25	27	21	48	148
33	園田	若王寺	H26	12	41	53	98
34	大庄	元浜	H26	19	36	55	144
35	大庄	今北	H26	17	29	46	96
36	中央	開明	H27	1	5	6	8
37	大庄	武庫川	H27	20	18	38	57
38	小田	神崎	H27	5	41	46	156
39	園田	御園	H27	35	45	80	46
40	武庫	武庫第8	H28	16	45	61	調査中
41	大庄	蓬川	H28	19	14	33	調査中
		合計		570	1,143	1,713	4,339

推進員・協力員の選任 41地区
 委員会立ち上げ済み 41地区
 登録希望調査済み 39地区

重点的な取組 ～小地域福祉活動基盤の充実～

点検・評価の項目及び視点	項目	新たな担い手づくり																																		
	視点	小地域における活動者やリーダーが増えているか																																		
計画期間内の目標	地域に根ざした小地域福祉活動やボランティア活動を広め、地域活動のリーダーとなる人材の確保、育成																																			
点検・評価の期間	平成 23 年度 から 平成 28 年度																																			
実施状況	<p>平成28年度「あまがさき地域福祉フェスタ～大人も子どもも未来輝くあまがさき～」尼崎市社会福祉協議会主催 地域の子育てについての各地域の事例発表等を実施した。「あまらぶチャレンジ事業ジュニアコース」（平成28年度2グループ）市内の高校生を対象に、地域課題に対するワークショップを3回を実施した。高校生の「災害」をテーマにした調査研究活動を、市、社会福祉協議会、NPO団体などが支援を行った。</p>																																			
点検	質的	<p>【到達度を測る事象】 小地域にリーダーとして活動できる人が多数存在する</p> <p>若い世代を対象としたボランティア講座の受講者の中で、講座終了後も新たに活動に参加する受講者も出てきているなど、担い手づくりの取り組みは進められている。しかしながら、アンケート調査では「活動メンバーが固定化し、新しい人が入ってこない（高齢化している）」「活動メンバーが不足している」といった声もあり、さらなる担い手づくりが必要とされている。</p>																																		
	数的	地域での新たな担い手やリーダー育成のための講座等の参加者数																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">目標値</th> <th style="width: 10%;">策定時</th> <th style="width: 10%;">H23</th> <th style="width: 10%;">H24</th> <th style="width: 10%;">H25</th> <th style="width: 10%;">H26</th> <th style="width: 10%;">H27</th> <th style="width: 10%;">H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>339</td> <td>250</td> <td>568</td> <td>1,157</td> <td>2,213</td> <td>1,662</td> </tr> <tr> <td>達成割合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成28年12月末時点 平成24年度以降は支部社協やボランティアセンター、社協支部のボランティア講座の受講者、地域福祉フォーラムの参加者の人数を計上</p>											目標値	策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28	実績	-	-	339	250	568	1,157	2,213	1,662	達成割合	-	-	-	-	-	-	-
	目標値	策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28																												
実績	-	-	339	250	568	1,157	2,213	1,662																												
達成割合	-	-	-	-	-	-	-	-																												
市民による	<p>【アンケート調査での確認内容】 市民がボランティア活動など地域の支え合い活動をする中での困り事</p> <div style="text-align: center;"> <p>単位：％ 全体 n=102</p> <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>困り事</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動メンバーが固定化していること</td> <td>52.0</td> </tr> <tr> <td>新しいメンバーが入ってこないこと</td> <td>27.5</td> </tr> <tr> <td>活動のための資金が不足していること</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td>活動のための場所がないこと</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>21.6</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>15.7</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>支え合い活動に参加している市民の感じている困り事は「活動メンバーが固定化していること」が最も高く、次に「新しいメンバーが入ってこないこと」となっている。</p>									困り事	割合	活動メンバーが固定化していること	52.0	新しいメンバーが入ってこないこと	27.5	活動のための資金が不足していること	8.8	活動のための場所がないこと	6.9	その他	21.6	不明	15.7													
困り事	割合																																			
活動メンバーが固定化していること	52.0																																			
新しいメンバーが入ってこないこと	27.5																																			
活動のための資金が不足していること	8.8																																			
活動のための場所がないこと	6.9																																			
その他	21.6																																			
不明	15.7																																			
計画の影響・効果	<p>社会福祉協議会の取り組みにより、新たな担い手づくりは進められているものの、引き続き、担い手の確保が課題となっている。 若い世代に関心を持ってもらうための取り組みや、気軽に地域活動に参加できる仕組みづくり（周知方法等）や場づくり、福祉学習の推進に取り組むことが必要となる。</p>																																			
今後必要な取り組み	<p>第3期「あまがさき地域福祉計画」の施策の展開方向 基本目標 1 - (1)福祉学習の推進 基本目標 1 - (2)地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援 基本目標 2 - (3)多様な手法による地域福祉活動の推進</p>																																			

小地域福祉活動の担い手づくり

【地域福祉活動専門員による啓発活動】

小地域福祉活動の新たな担い手づくりや活動を牽引していくリーダー育成のため、各地域で地域福祉活動専門員が啓発等を行なった。

(啓発活動等実施回数)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
講座・研修会等の実施数	109回	108回	61回	222回	169回

平成 28 年度は 12 月末日現在の回数

対象者 ... 地域のボランティア活動者、社会福祉連絡協議会、単位福祉協会、老人クラブ、婦人会、PTA、見守り安心委員会等

(主な内容)

- ・小地域福祉活動の意義及び活動への参画についての啓発
- ・小地域福祉活動の幅を広げるための啓発(ステップアップを目的として)
- ・地域住民の孤立化を防ぐための啓発
- ・福祉教育(ハンデキャップ体験等)

【社会福祉協議会による啓発活動】

- ・ボランティアセンター主催

(講座開催数及び対象者数)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
講座開催数	7回	6回	8回	13回	9回
対象者数	63人	59人	80人	245人	140人

平成 28 年度は 12 月末日現在の回数、人数

(開催内容)

下線は 28 年度に初めて VC 主催として実施した講座等。()内は参加人数

聴覚障害コミュニケーションサポート講座(14)

手話入門講座(18)

学生向けボランティア講座(11)

朗読入門講座(11)

点訳講座(平成 29 年 2 月実施予定)

要約筆記プチ体験教室(2)

災害ボランティア養成講座(25)

高齢者疑似体験教室(3)

はじめてのボランティア教室(15)

ぬくもりカフェ和楽園(41)

みんな de ぼうさいゲーム

(平成 29 年 3 月実施予定)

・支部社会福祉協議会、老人福祉センター等主催

(講座開催数及び対象者数)

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
講座開催数	12 回	53 回	52 回	78 回	52 回
対象者数	187 人	509 人	1,077 人	1,765 人	1,139 人

平成 28 年度は 12 月末日現在の回数、人数

(開催内容)

- ・一日ボランティア教室、夏休み子ども向けボランティア教室、ボランティア講演会、高齢者見守り安心事業研修・交流会、認知症サポーター養成講座、絵本のみきかせ勉強会、子育て応援隊養成講座、園田地区福祉フェスタ、傾聴ボランティア講座、朗読ボランティア講座、シニアボランティア入門講座、高齢者サポーター講習会、地域カフェボランティア講座、おたがいさま地域たすけあい講座 など

「高齢者等見守り安心事業」における見守り推進員・協力員の推移

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
見守り推進員	218 人	308 人	436 人	488 人	509 人
見守り協力員	443 人	708 人	997 人	1,119 人	1,070 人
計	661 人	1,016 人	1,433 人	1,607 人	1,579 人

平成 28 年度は 3 月 1 日現在の人数

ボランティアセンター登録者の年度別推移

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
登録者	5,502 人	5,396 人	5,208 人	5,307 人	4,859 人

平成 28 年度は 12 月末日現在の人数

あまがさき地域福祉フェスタ ～大人も子どもも未来輝くあまがさき～

(平成28年11月26日実施 社会福祉協議会主催 参加者数 470人)

目的 子どもの6人に1人が貧困状態にあると言われており、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は厳しい状況にあります。子育て中に不安を感じる保護者も増えているため、「未来を担う子どもたちは自分たちのまちで育んでいこう」と、登下校の見守りや子どもの居場所づくりなど、多様な活動をすすめおり、こうした事例の発表を聞き、新たな活動の実践につなげていく。

内容

基調講演 演題：「子どもが豊かに育つために大人ができること
～未来の人材は、今、育まれている～」

講師：キッズいわき・ぱふ代表 岩城 敏之 氏

地域の活動の事例発表 「各地区からの子育て支援の取り組み」

【パネリスト】

(中央地区) 子育てサークル「ぱんだっこ」南 麗氏、碓 ゆかり氏

(立花地区) 塚口西コミュニティ交流広場推進委員会子育て支援グループ
上田 義明氏、清水 厚子氏

(園田地区) 園田地区子育て支援連絡会 小林 正義氏、和田 笑氏

【コーディネーター】 種智院大学人文学部社会福祉学科教授 明石 隆行 氏
シビックギャラリー

「あまりん広場～ちょっと楽しくちょっとためになる色彩(イロイロ)」

(出店団体) 企業、NPOなど11団体、相談コーナー(市、社会福祉協議会)

【パネル展示】 まあるい食卓、こども政策課

兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型探求基礎報告会

(研究課題) 「災害に強いまちづくり 高校生にできること」

(生徒研究発表会)

「自助 災害に備えて」「地域防災マップ」「インクルーシブ防災弱者(災害時要援護者)」など、6グループが発表を行った。

各グループがテーマを決め、災害に関する施設訪問やインタビューを行い、研究報告の中では「私たち・高校生」を主語に、「できること」「してみたいこと」の提案を行った。

(調査協力)

尼崎市、尼崎市社会福祉協議会、兵庫県立大学総合教育防災教育研究センター、防災士、まちづくりコーディネーター、園田学園女子大学、など

重点的な取組 ～小地域福祉活動基盤の充実～

点検・評価の項目及び視点		項目	地域福祉推進の専門職の配置
		視点	地域福祉活動専門員の活動が深まっているか
計画期間内の目標		<p>【別添資料】</p> <p>地域福祉活動専門員の1年間のあゆみ参照</p>	
点検・評価の期間			
実施状況			
点検	質的点検		
	数的点検		
	市民による点検	<p>【アンケート調査での確認内容】 民生児童委員が現在及び新たに相談・連携が必要と考える関係機関等</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>アンケート調査結果は、第3期「あまがさきし地域福祉計画」(答申案)P28を参照。</p> <p>(結果の概要) 民生児童委員が普段から連携・協働していると回答した割合は平均より低いものの、今後連携・協働が必要と回答した割合が平均よりも高い「補填」領域にある関係機関等として、市社会福祉協議会の「地域福祉活動専門員」があげられている。 民生児童委員活動の中で、今後の地域福祉活動専門員の役割への期待が見られている結果となった。</p>	
計画の影響・効果		<p>【別添資料】</p> <p>地域福祉活動専門員の1年間のあゆみを参照</p>	
今後必要な取り組み			

重点的な取組 ～小地域福祉活動基盤の充実～

点検・評価の項目及び視点	項目	地域の生活・福祉課題を共有し検討する場づくり																																						
	視点	住民の福祉に関する話し合いの場が増えたか																																						
計画期間内の目標	地域福祉会議の設置など、住民の福祉に関する話し合いの場が広まるとともに、地域の人や資源、ニーズに関する事柄が活発に話し合われる。																																							
点検・評価の期間	平成 23 年度 から 平成 28 年度																																							
実施状況	<p>地域福祉会議は新たに1地区増え、平成28年12月末現在4地区で設置。 見守り安心委員会は2地区増え、平成29年1月末現在で75連協中41連協（約55%）で設置されるほか、サロン活動や子どもの支援をテーマに話し合う場など、様々な地域の生活福祉課題を話し合う場が増えてきている。</p> <p>また、6地区で、地域住民や専門機関などの多様な主体が協議する場としての介護保険制度における協議体の設置が進められており、平成28年2月1日現在5地区で設置され、残る1地区も設置に向けた関係機関等との意見交換会が行われている。</p>																																							
点検	質的 point check	<p>【到達度を測る事象】 小地域で地域の福祉ニーズ等が共有される場がある</p> <p>地域福祉会議は1カ所立ち上がったものの、全連協圏域での設置は進んでいない。一方で、地域福祉活動専門員の働きかけにより、見守り安心委員会やサロン活動や子どもの支援や防災などの地域活動の中で、地域課題について話し合いが行われるなど、地域住民同士での話し合いの場の広がりが見られている。また、協議体において専門機関、地域住民が地域課題を協議し、解決に向けた話し合いも行われている。こうした取り組みにより、地域住民や専門機関などが様々な課題を、共有することで、子どもに寄り添う居場所などの実施につながるなど、新たな取り組みが進められている。</p>																																						
		数的 point check	<p>【指標】 地域福祉会議の設置数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>策定時</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>74</td> <td>75</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>達成割合</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> <td>2.7%</td> <td>4.1%</td> <td>4.1%</td> <td>4.0%</td> <td>5.3%</td> </tr> </tbody> </table>								策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28	目標値	74	74	74	74	74	75	75	実績	0	0	2	3	3	3	4	達成割合	0.0%	0.0%	2.7%	4.1%	4.1%	4.0%
			策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28																															
目標値	74	74	74	74	74	75	75																																	
実績	0	0	2	3	3	3	4																																	
達成割合	0.0%	0.0%	2.7%	4.1%	4.1%	4.0%	5.3%																																	
市民による point check	<p>【アンケート調査での確認内容】 民生児童委員活動を通して把握している担当区域の生活・福祉課題について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害時の要援護者の支援</td> <td>50.1</td> </tr> <tr> <td>認知症（疑いも含む）の方の対応</td> <td>43.8</td> </tr> <tr> <td>高齢者（疑いも含む）、障害者虐待の対応</td> <td>18.4</td> </tr> <tr> <td>引きこもりの対応</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <td>子どもの虐待（疑いも含む）の対応</td> <td>8.7</td> </tr> <tr> <td>消費者被害</td> <td>8.6</td> </tr> <tr> <td>高齢者・障害者等の対応</td> <td>6.9</td> </tr> <tr> <td>子どもの貧困</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>DVの対応</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>不明</td> <td>17.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>民生児童委員の担当区域には多様な課題が存在しており、民生児童委員だけでは解決が難しい課題も多い状況がわかる。</p>							課題	割合 (%)	災害時の要援護者の支援	50.1	認知症（疑いも含む）の方の対応	43.8	高齢者（疑いも含む）、障害者虐待の対応	18.4	引きこもりの対応	13.3	子どもの虐待（疑いも含む）の対応	8.7	消費者被害	8.6	高齢者・障害者等の対応	6.9	子どもの貧困	4.5	DVの対応	2.5	その他	14.0	不明	17.6									
課題	割合 (%)																																							
災害時の要援護者の支援	50.1																																							
認知症（疑いも含む）の方の対応	43.8																																							
高齢者（疑いも含む）、障害者虐待の対応	18.4																																							
引きこもりの対応	13.3																																							
子どもの虐待（疑いも含む）の対応	8.7																																							
消費者被害	8.6																																							
高齢者・障害者等の対応	6.9																																							
子どもの貧困	4.5																																							
DVの対応	2.5																																							
その他	14.0																																							
不明	17.6																																							
計画の影響・効果	<p>地域福祉会議に加え、見守り安心委員会やサロン活動等で、地域の生活福祉課題を話し合う機会が増えるほか、地域の特性に合わせた協議体を立ち上げる地域も出てきている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、地域福祉会議という名称にこだわることなく、地域で活動する多様な主体が、気軽に地域の様々な課題について話し合う場を構築することが必要と考えられる。</p>																																							
今後必要な取り組み	<p>第3期「あまがさきし地域福祉計画」の施策の展開方向</p> <p>基本目標2 - (1)地域を支えるネットワークづくり</p> <p>基本目標2 - (2)地域での見守り・支え合いの充実</p> <p>基本目標2 - (3)多様な手法による地域福祉活動の推進</p>																																							

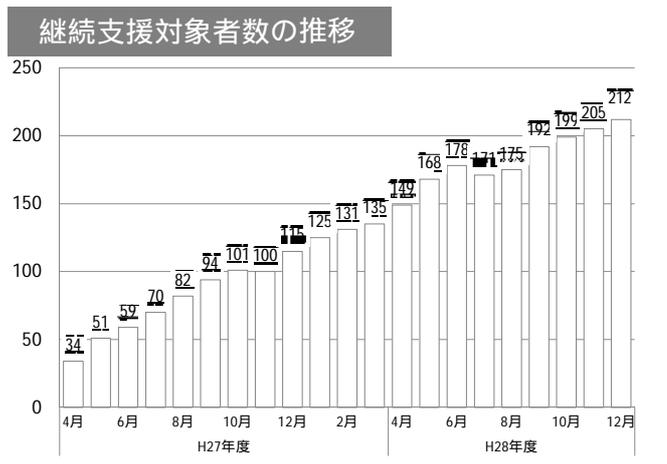
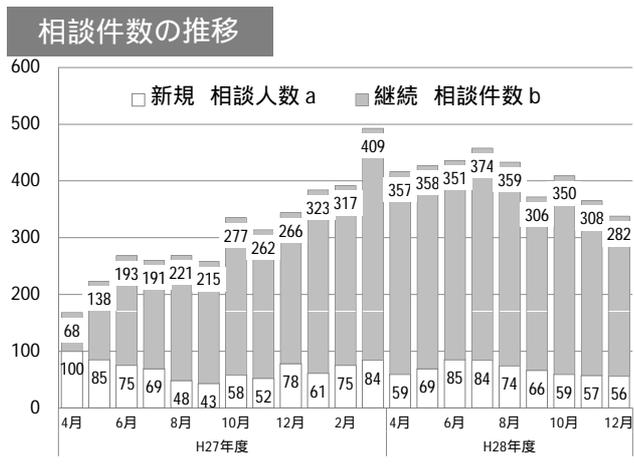
重点的な取組 ～小地域福祉活動基盤の充実～

点検・評価の項目及び視点		項目	地域と市、専門機関のネットワークづくり																																		
		視点	課題解決につながる仕組みづくりが進んでいるか																																		
計画期間内の目標		多様化・複合化したニーズに対応できる、地域と専門機関、行政が連携したネットワークが構築される。																																			
点検・評価の期間		平成 23 年度 から 平成 28 年度																																			
実施状況		<p>地域福祉活動専門員が地域ケア会議などに参画したり、協議体の設置に取り組む中で他機関との連携を進めるほか、地域福祉活動の支援を通して、様々な地域活動の主体同士をつながりづくりを進めている。</p> <p>(協議体構成団体等数)中央8 小田3 立花3 武庫6 園田4 28.12末時点</p> <p>しごと・くらしサポートセンター尼崎では、市民に接する機会の多い窓口を中心とした内部連携の仕組み(庁内会議や市窓口向け研修)や様々な関係団体を構成員とする生活困窮者自立支援制度推進協議会を通して、支援を必要とする市民の早期発見と自立支援に向けたネットワークの構築を進めている。</p>																																			
点検	質的	【到達度を測る事象】 住民の個別課題等を専門機関につなげるネットワークがある																																			
		<p>地域福祉活動専門員の取り組みにより、社会福祉協議会支部事務局には、専門機関や地域住民などから新たな相談が寄せられることに加え、様々な活動主体が連携した取り組みを始めるなど、課題解決に向けたネットワークづくりが進んでいる。</p> <p>しごと・くらしサポートセンター尼崎では、その役割等の周知に伴い、様々な機関からの相談の広がりが見られている。その一方で、多様な課題に対応した社会資源が不足していることで、支援の長期化が課題となっている。</p>																																			
	数的	<p>【指標】 地域福祉会議、見守り安心委員会と連携している専門機関の数(延べ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>策定時</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>40</td> <td>44</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>達成割合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成28年12月末時点</p>								目標値	策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28	実績	-	4	18	24	37	40	44	46	達成割合	-	-	-	-	-	-	-	-		
	目標値	策定時	H23	H24	H25	H26	H27	H28																													
実績	-	4	18	24	37	40	44	46																													
達成割合	-	-	-	-	-	-	-	-																													
市民による	<p>【アンケート調査での確認内容】</p> <p>市民が日常生活において感じている不安の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>不安の状況</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>自分や家族の健康</td><td>55.6</td></tr> <tr><td>自分や家族の老後</td><td>52.4</td></tr> <tr><td>収入や生活費のこと</td><td>44.8</td></tr> <tr><td>災害にあった時のこと</td><td>42.3</td></tr> <tr><td>介護、介助に関すること</td><td>26.5</td></tr> <tr><td>仕事に関すること</td><td>14.6</td></tr> <tr><td>隣(家族や友人、近所)人間関係のこと</td><td>13.9</td></tr> <tr><td>住まいのこと</td><td>13.2</td></tr> <tr><td>子育てに関すること</td><td>12.4</td></tr> <tr><td>相談できる相手がいないこと</td><td>6.4</td></tr> <tr><td>特になし</td><td>6.5</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>不明</td><td>2.3</td></tr> <tr><td>不安の平均数</td><td>2.9</td></tr> </tbody> </table> <p>市民1人が抱える不安の平均数は約2.9個となっている。</p> <p>また、「相談できる相手がいないこと」を不安に感じていると答える方も6.4%おり、不安を抱えながら地域で孤立している市民の状況が見られる。</p>							不安の状況	割合(%)	自分や家族の健康	55.6	自分や家族の老後	52.4	収入や生活費のこと	44.8	災害にあった時のこと	42.3	介護、介助に関すること	26.5	仕事に関すること	14.6	隣(家族や友人、近所)人間関係のこと	13.9	住まいのこと	13.2	子育てに関すること	12.4	相談できる相手がいないこと	6.4	特になし	6.5	その他	3.5	不明	2.3	不安の平均数	2.9
不安の状況	割合(%)																																				
自分や家族の健康	55.6																																				
自分や家族の老後	52.4																																				
収入や生活費のこと	44.8																																				
災害にあった時のこと	42.3																																				
介護、介助に関すること	26.5																																				
仕事に関すること	14.6																																				
隣(家族や友人、近所)人間関係のこと	13.9																																				
住まいのこと	13.2																																				
子育てに関すること	12.4																																				
相談できる相手がいないこと	6.4																																				
特になし	6.5																																				
その他	3.5																																				
不明	2.3																																				
不安の平均数	2.9																																				
計画の影響・効果		地域社会のつながりの希薄化が進む中で、支援を必要としながら社会的に孤立化している状況も見られており、引き続き、制度の谷間・狭間の課題や分野をまたがる課題の解決につながるよう、さらなる重層的なネットワークを構築していく必要がある。																																			
今後必要な取り組み		<p>第3期「あまがさきし地域福祉計画」の施策の展開方向</p> <p>基本目標2 - (1)地域を支えるネットワークづくり</p> <p>基本目標3 - (1)包括的・総合的な相談支援体制の充実</p>																																			

「しごと・くらしサポートセンター尼崎」の相談対応状況等（平成28年12月末時点）

H27年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規 相談人数 a	100	85	75	69	48	43	58	52	78	61	75	84	828	69
平均新規相談人数/日	4.76	4.72	3.41	3.14	2.29	2.26	2.76	2.74	4.33	3.21	3.75	3.82	3.42	
継続 相談件数 b	68	138	193	191	221	215	277	262	266	323	317	409	2,880	240
平均継続相談件数/日	3.24	7.67	8.77	8.68	10.52	11.32	13.19	13.79	14.78	17.00	15.85	18.59	11.90	
(H27年度 開庁日数)	21	18	22	22	21	19	21	19	18	19	20	22	242	20

H28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規 相談人数 a	59	69	85	84	74	66	59	57	56				609	68
平均新規相談人数/日	2.95	3.63	3.86	4.20	3.36	3.30	2.95	2.71	2.67				3.29	
継続 相談件数 b	357	358	351	374	359	306	350	311	284				3,050	339
平均継続相談件数/日	17.85	18.84	15.95	18.70	16.32	15.30	17.50	14.81	13.52				16.49	
(H28年度 開庁日数)	20	19	22	20	22	20	20	21	21	19	20	21	245	21



【 様々なネットワークを活かした地域づくりの取組み 】

自立相談支援事業を担う「しごと・くらしサポートセンター尼崎」の支援員は、上記のように相談支援を進めながら、課題を把握し、必要な関係機関が支援できるようなコーディネート役を担っています。

しかしながら、支援をコーディネートしようとしても、必要な社会資源が十分に備わっているとは限りません。

行政内部のもの、庁外を含めた主に専門機関のもの、または、個別課題検討のためのものなど、様々なネットワークを活かし、制度の目的の1つである「生活困窮者支援を通じた地域づくり」に取り組むことも必要です。

相談対応や支援とともに、出口につながる社会資源を開拓(求人開拓を含む)することで、少しでも相談者の課題を早期に解決していくことができると考えております。